

演題名：本邦の外科研修の現状と課題：全国アンケート調査報告

[演者]パウデル サシーム;1

[共同演者]喜安 佳之:2, 小池 大助:3, 渡部 純:4, 小渡 亮介:5, 福本 将之:6, 藤川 善子:7, 菊池 悠太:8, 荒井 啓輔:9, 坊岡 英祐:10, 石田 苑子:11, 横山 新一郎:12, 齊藤 光江:13

1. 恵佑会札幌病院消化器外科
2. 京都大学消化管外科
3. 藤田医科大学ばんだね病院消化器外科
4. 自治医科大学消化器一般移植外科
5. 弘前大学呼吸器外科・心臓血管外科
6. 長崎大学大学院移植・消化器外科
7. 深見台中央医院
8. おおたかの森病院外科
9. 神戸大学肝胆膵外科
10. 浜松医科大学外科
11. 北播磨総合医療センター外科
12. 北海道子ども総合医療・療育センター小児外科
13. 順天堂大学乳腺腫瘍学講座

【背景】本邦では医学部卒業者が増えているが、外科修練医の数は減少傾向である。長時間労働、家庭と仕事のバランスなどが課題として挙げられている。しかし、本邦の若手外科医の労働環境、修練状況、家庭環境などを取りまとめた調査は行われてない。そこで日本外科学会教育委員会 U 40 ワーキンググループは、これらを含めた若手外科医の外科修練の現状を把握するために、全国アンケート調査を実施した。

【目的】 日本での外科研修中に修練医が直面する問題を明らかにする。

【方法】 令和3年度と令和4年度の外科専門医試験合格者全員を対象にオンラインアンケート調査を実施した。アンケートの内容は日本外科学会教育委員会 U40 ワーキンググループの委員で作成した。アンケートは背景、外科医になった理由、修練プログラムの評価、地域偏在、労働環境、ドロップアウトの現状や背景などをテーマに42問で構成された。

【結果】 回答率は53.8% (758/1410) だった。回答者のうち、25.6%が女性で、全体の71.4%が結婚しているかパートナーがおり、41.3%に子供がいた。72.7%が全身麻酔下で200件以上の手術を行い、54.1%が医学部卒業前に外科医になることを選択していた。外科選択時、88.8%が外科技術に魅了されていたが、63.8%は生活の質(QOL)の低下を懸念していた。逆に、積極的な外科選択理由としてQOLを挙げたのは1.4%だった。修練医の84.6%が研修全般に満足しており、これは手術執刀数と相関していた。ノンテクニカルトレーニングを受けたのは29.9%だった。月平均の夜勤は5.3回で、10.6%が週80時間以上働いていた。さらに、一度はドロップアウト検討した人はその理由としてQOLの低下やハラスメントを挙げていた。

【結語】 今回の調査では、修練医は研修制度全体に満足しているものの、外科研修には長時間労働やハラスメントと感じている環境が修練継続を妨げていることが明らかになった。これらの問題の改善に取り組むことで、若い修練医にとって外科研修がより魅力的なものになる可能性がある。